

## 2023 年度 動物実験部会 自己点検・評価

### 1)年度当初の計画 <P>

2023 年度の活動計画は次の通りであった。

松本大学動物実験規程に関する動物実験部会内規第 2 条に則って、松本大学動物実験規程の運用方針、動物実験計画等に関する事項を行う。

### 2)実施・活動状況 <D>

本年度の動物実験部会は以下の構成であり、事務局からは 2 名のサポートを得て運営された。

- ・動物実験等に関して優れた識見を有する者  
河野史倫、室谷心、増尾均、福島智子、澤柿教淳、川島均
- ・倫理等の学識経験を有する者  
福島智子
- ・実験動物に関して優れた識見を有する者  
塩谷一紗

#### ①2023 年度実験計画審査

<第 24-01 (継続変更あり) >

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 山田一哉教授

研究課題：ホルモンと栄養素による遺伝子の転写制御機構の解析

研究目的：食物摂食後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 塩谷一紗助手、他に学部生 12 名

実験実施期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

使用動物：ラット 50 匹、マウス 60 匹

<第 24-02 (継続変更あり) >

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 山田一哉教授

研究課題：生化学実験 (健康栄養学科 2 年生後期)

研究目的：絶食時および高炭水化物食摂食後の血糖および血中脂質濃度の測定と代謝酵素遺伝子の発現変動を解析する

動物実験実施者名：健康栄養学科 塩谷一紗助手、他に健康栄養学科 2 年生受講生

実験実施期間：2024 年 9 月～2025 年 1 月

使用動物：ラット 10 匹

<第 24-03 (継続変更あり) >

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 河野史倫教授

研究課題：骨格筋機能を決定する生理的要因とそのメカニズム解明

研究目的：活動歴や障害歴など骨格筋が経た前歴が骨格筋の適応性にどのような影響を与えるのか追及する。また、それらの変化を裏付けるヒストン修飾変化を明らかにするため、遺伝子ノックアウトやノックダウン、薬剤を適宜組み合わせることで検討を行う。

動物実験実施者名：大学院生 6 名、学部生 10 名

実験実施期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

使用動物：マウス 200 匹、その他に交配マウス

< 第 24-04 (継続変更あり) >

動物実験責任者：大学院健康科学研究科 高木勝広教授

研究課題：血糖低下作用を示す食品成分のスクリーニングと作用機構の解明

研究目的：食物摂食後の哺乳動物の生体内での遺伝子発現の変動機構を解析する

動物実験実施者名：学部生 13 名

実験実施期間：2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日

使用動物：マウス 50 匹、マウス 40 匹

## ②教育訓練

下記の日程で教育訓練を実施した。

- ・2023 年 4 月 21 日 教育訓練 (大学院生・スポーツ健康学科学生向け) 参加者 3 名
- ・2023 年 9 月 26 日 教育訓練 (健康栄養学科学生向け) 参加者 78 名

## ③動物実験に関する外部検証

1～2 年後の外部検証受検に向けて河野委員と塩谷委員にワーキンググループとして検討をお願いしている。

## ④その他

例年、学内で行われている動物慰霊祭を、2023 年 5 月 24 日に挙行了。高木勝広教授が、実験動物に対する慰霊の言葉を述べた。

## 3)点検・評価の結果 <C>

すべての実験計画について審議の結果、規程・ガイドラインに沿った内容であったため、意義なく承認し、審査の結果を申請者と最終責任者である学長に文書で上申した。本年度の実験に用いた動物数は、ラット 10 匹、マウス 491 匹であった。今後の適正な動物実験のための準備を始めることができた。

## 4)次年度に向けた課題・方策 <A>

松本大学動物実験規程に関する動物実験部会内規第 2 条に則って、松本大学動物実験規程の運用方針、動物実験計画等に関する事項を行う。

< 執筆担当 / 研究倫理委員会 委員長 川島 均 >